真摯に挑戦する「感動と変容を実感できる学校作り」

校 長　茂 庭 隆 彦

「丁寧に生徒と向き合い人間関係を作り、生徒と共に授業を作り、生徒も教師も感動と変容を実感できる学校を作る。」これが本年度最初に先生方へ示した学校経営方針です。そのために、次の三つの具体的な方策を挙げました。**①教えるから学び合う場に授業を変える！、②地域・保護者から信頼を得る！、③チーム岩泉高校を支える教師集団を育てる！**です。この実践に求められるのが、ＰＴＡ入会式で話した学校経営に関する**「真摯さ」**です。マーケティングに基づき地域・生徒・教師の強みと弱みを分析した結果について述べ、それぞれの強みを生かし弱みを補完する三者の連携において真摯さが重要であると話しました。真摯さとは、模範、責任、倫理、貢献です。教育において親・教師が、範となり、言動に責任を持ち、神様が見ているから嘘はつかず、成果を出すことです。

①教えるから学び合う場に授業を変える！とは、教師が教科の本質を踏まえた上で、生徒が主体的・協働的に学ぶ授業を作っていくことです。今年度から知識以外に、学ぶ意欲や関心、思考・判断・表現なども評価する観点別評価の本格的運用に入ります。黒板に指導内容を一方的に書きまくるような講義型の授業では、教師が生徒一人ひとりの学びの状況を把握するのは困難です。指導目標に準拠した観点別評価を行うには、学び合う場を提供し、生徒の持つ能力を引き出して、授業の場面場面で正当に評価する努力が必要です。そして、課題に対し、生徒同士が教え合いながら、議論しながら納得解を導き出す手助けが求められます。その際に重要なのが教科の本質であるオーセンティックな学びをコントロールする教師の存在です。基礎的な知識や基本的な教科の考え方を重視して、同時に、学びの面白さを感じさせ、知的好奇心を刺激する授業です。従来から、生徒の理解状況を常に確認しフィードバックして授業改善する姿勢が教師に問われていました。これらを更に改善する取組が観点別評価であり、主体的・協働的な学びを支える学力伸長の手段が、アクティブラーニングです。本校は，県総合教育センターの研究協力校として、国語・地理歴史・公民・数学・理科・英語の教科でこのアクティブラーニングを取り入れた授業作りについて実践研究を行います。さらに、文部科学省の「教育の質保証を目指し小規模校が連携する遠隔授業の実証的調査研究」に協力していきます。西和賀高校との双方向で同時に教科や課外授業を行い、生徒間同士のやり取りも可能になります。

②地域・保護者から信頼を得る！とは、地域・保護者の方々の期待に応え、結果を出すことです。町内の中学生の半分しか本校へ入学していないのが現状です。地元の高校からも難関大学に進学できる実績、並行して地域を支える人材の育成に努めます。地域の方々に理解していただけるよう積極的に情報を発信していきます。

③チーム岩泉高校を支える教師集団を育てる！とは、学校経営に心躍る期待感を抱いて全員が参画し、生徒と一体になって協働して学校を変革していく総合的な指導力を持った教師を育てることです。自律性と同僚性を培い、不断に職場内で研修できる環境作りをするＯＪＴや、アクティブラーニング研修などに全職員を派遣し教師の指導力を向上させます。併せて、職場環境、教育環境の最適化を図ります。保護者の方も、職員室に足を運んでください。きっと風の通る気持ちのいい空間へと変化していることを感じると思います。

生徒が、自己肯定感を高め、未来に向かい自己実現できるよう、本校と地域が持続的発展を遂げられるよう、チーム岩泉高校は最善を尽くしますので、今後とも一層の御理解と御協力をいただきますよう、どうぞよろしくお願いします。